

## アトサヌプリの火山活動解説資料（平成 20 年 7 月）

札幌管区気象台  
火山監視・情報センター

火山活動に特段の変化はなく、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は見られません。  
平成 19 年 12 月 1 日に噴火予報（平常）を発表しました。その後、予報警報事項に変更はありません。

### ○ 活動概況

#### ・ 火口や噴気の状況（図 1～6）

8 日及び 10 日に現地調査を実施しました。アトサヌプリ溶岩ドームでは噴気活動が続いており、点在する複数の噴気孔から白色の噴気が数 m～10 m 程度上がっていました。それぞれの噴気温度は 100～120℃で前回（2007 年 11 月：100～120℃）と比較して変化はありませんでした。赤外熱映像装置<sup>1)</sup>による観測でも、特段の変化は認められませんでした。

1) 赤外放射温度計や赤外熱映像装置は、物体が放射する赤外線を検知して温度や温度分布を測定する計器です。熱源から離れた場所から測定できる利点がありますが、測定距離や大気等の影響で実際の熱源の温度よりも低く測定される場合があります。



図 1 アトサヌプリ 全景  
(2008 年 7 月 10 日 図 2 ①方向より撮影)

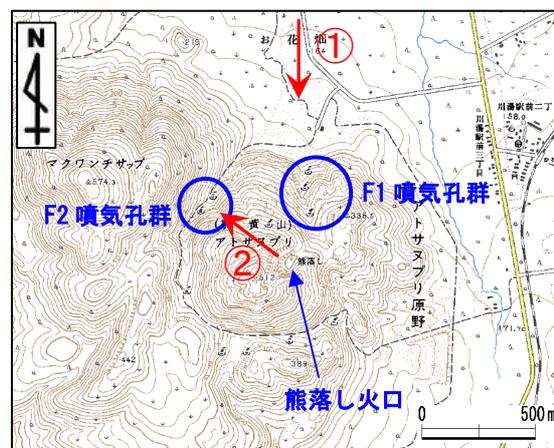


図 2 アトサヌプリ 周辺図

この火山活動解説資料は札幌管区気象台のホームページ(<http://www.sapporo-jma.go.jp>)や気象庁のホームページ(<http://www.seisvol.kishou.go.jp/tokyo/volcano.html>)でも閲覧することができます。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図 25000（地図画像）』を使用しています（承認番号 平 17 総使、第 503 号）。



図3 アトサヌプリ 熊落し火口の状況  
(2008年7月8日 南東側から撮影)



図4 アトサヌプリ F1 噴気孔群の状況  
(2008年7月8日 西側から撮影)

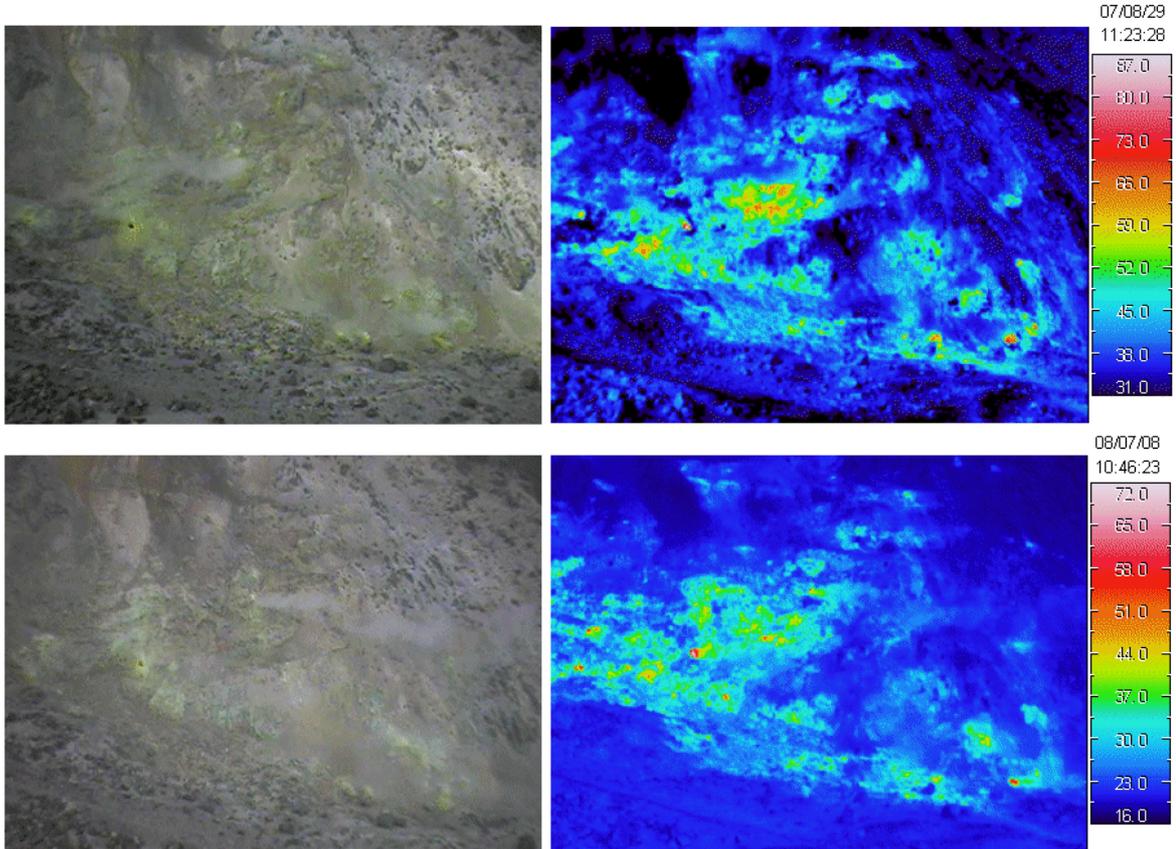


図5 アトサヌプリ F2 噴気孔群の地表面温度分布  
(上段: 2007年8月29日 下段: 2008年7月8日 図2②方向より撮影)

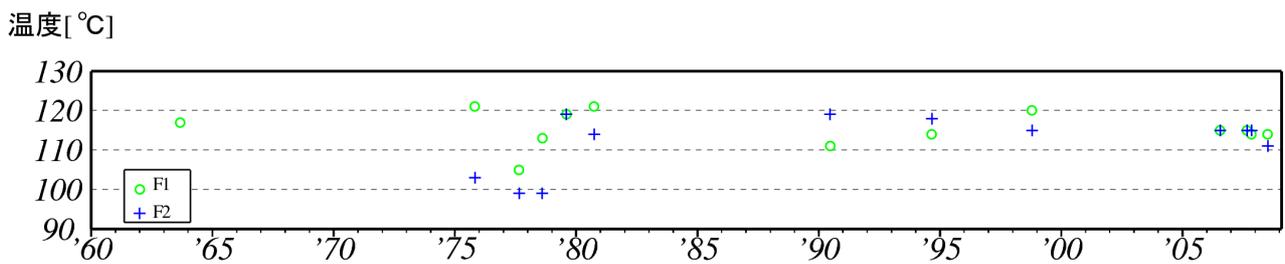


図6 アトサヌプリ F1・F2 噴気孔群の温度変化 (1963年~2008年)